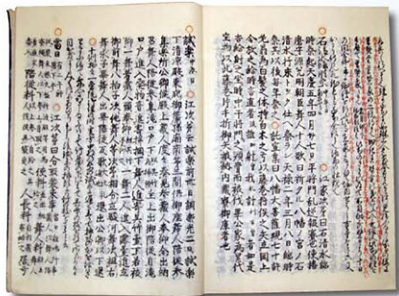
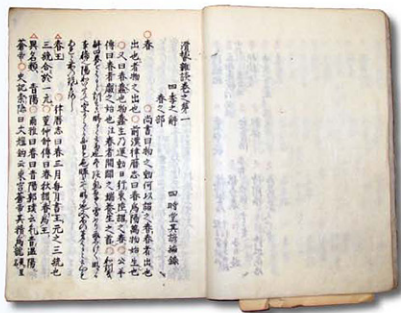


『滑稽雑談』



函架番号 E-84。写本 24 卷 24 冊。縦 26.9cm × 横 19.6cm。袋綴。楮紙。縹色刷毛目模様表紙。各冊一丁表に「黒川真頼蔵書」「黒川真頼」「不羈齋図書記」「黒川真道蔵書」、見返に「ノートルダム清心女子大学図書之印」の朱陽印。朱書入。書写年不明。正徳 3 年 (1713) 8 月序、四時堂其諺著、千載堂丈石補訂の季寄である。

著者の其諺は、京都円山正阿弥の住職で、五条橋東に隠棲した (元文元年 (1736) 没、71 歳)。貞門宮川松堅の門人である。補訂した丈石も俳諧師で、其諺に和漢を学んだ。(丈石編 宝暦元年 (1751) 刊『俳諧家譜』⁽¹⁾ に拠る。)

本作は月の順に四季の時令、行事、名物等約

2300 項を掲げ、律暦志や『江家次第』をはじめ和漢に涉り数多の古典の引拠を以て季語の解説を施す。『誹家大系図』⁽²⁾ (春明著、天保 9 年 (1838) 成) には「俳諧ノタスケノミニアラズ、好古考トナルベキコト甚多シ」と評された。後年の季寄にも影響を与えており、大部で知られる亀文著『華実年浪草』(天明 3 年 (1783) 刊) は処々に本作を引く。

板行されることはなく写本のみで伝わるが、その異本に関しては、大正 6 年国書刊行会刊の活字本 (複製 昭和 53 年ゆまに書房刊) において校合が行われている。なお、本学黒川文庫には、6 卷 6 冊 (正月から 3 月まで) の残欠本『滑稽雑談』(E-85) も所蔵される。

注 (1)(2) 『日本俳書大系』所収。